

明治八年

大阪

錦画

新聞

第七号

武藏の国高麗郡大河原村

大工和吉の女房へ諸事

邪見ある氣性よーて

隣所の人へ名をよばむ。アリヤ

鬼婆々と評判と。鳥けのいも

ねとらう。未でへ賣らんたくにて。他人の子貰へど食物も

ひづめて責る氣強さ。居付くものさへい中は。漸く明て

十三。ある小娘へ両親も。家もあけ給ふ去ぬ所の。泣き込

つゝ辛抱も。空腹いこのたふみて。買物へ行ふ其錢を。三度

とけ買食も。子供心の不筆用と。女房持れとさとしりて。

買物先で問合へ。全く二百たぬ。怒たてく散々。

お擲する其上。火箸を焼て顔めて。裾をまく

尻めて。聲と出せば猶責る。娘へ命も危ふらじと忽ち
あゝ是警視所へ。和吉夫婦ハ引くまーとぞ

井原

石和板

明治八年 大阪錦画新聞7号 文庫10-8064-6

早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library